

大雨の事後対策について

平成30年7月6日
奈良県農業水産振興課

1. 水稲・大豆の事後対策

水 稲

- ・冠水および浸水したほ場は、速やかに排水に努める。
- ・泥水が冠水した場合は、きれいな水で洗い流す。
- ・いもち病の常発圃場では、大雨後は防除に努める。
- ・水害後は、紋枯病、白葉枯病等が異常発生しやすいので充分注意し、時期を失しないよう防除する。
- ・小麦跡の作付等で移植が遅くなっている場合、分けつ初期の水稲は、深水となると著しい分けつ抑制をうけるので、浸水状態が長く続かないようにする。

大 豆

- ・冠水および浸水したほ場は、速やかに排水に努める。

2. 野菜類の事後対策

- ・圃場の排水路を確保するとともに、周辺水路のつまり等による圃場への水の流入を防止するため、水路の点検を行う。
- ・圃場内の水の滞留は、根傷み・根腐れを起こし、樹勢低下の原因となるほか、病害発生の原因にもなるので、速やかに排水対策を実施する。

イチゴ・ナス・トマト

排水・病害対策

- ・イチゴ地床育苗（ベッド、ポット育苗等）で冠水した場合、速やかに排水するとともに炭疽病および疫病の予防散布を行う。
- ・ナスでは褐色腐敗病、トマトでは疫病の対策として、天候回復後速やかに薬剤による予防散布を実施する。
- ・ナス・トマトでは、傷んだ葉や果実をあらかじめ除去してから薬剤散布を行う。
薬剤は、下記のとおり。

大雨後に予防散布する薬剤例(イチゴ)

農薬の名称	作物名	適用病害名	希釈倍数	散布液量	使用時期	使用回数	使用方法
ジマンダイセン水和剤	いちご	炭疽病	600倍	100～300 $\frac{\text{L}}{10\text{a}}$	仮植栽培期但し 収穫76日前まで	6回以内	散布

大雨後に散布する薬剤例(ナス及びトマト)

農薬の名称	作物名	適用病害名	希釈倍数	散布液量	使用時期	使用回数	使用方法
ホライズンドライフロアブル	なす	褐色腐敗病	2500倍	150～300 $\frac{\text{L}}{10\text{a}}$	収穫前日まで	3回以内	散布
	トマト	疫病	1500～ 2500倍				
ランマンフロアブル	なす	褐色腐敗病	2000倍	150～300 $\frac{\text{L}}{10\text{a}}$	収穫前日まで	4回以内	散布
	トマト	疫病	1000～ 2000倍				

農薬に関する情報は、平成30年7月3日時点の農薬登録情報に基づいて記載しています。
農薬を使用する際はラベルをよく読んで使用基準を遵守してください。

その他野菜

果菜類

- ・ 傷果や茎葉などの残渣は病害発生の原因となるので、圃場外に持ち出し処分する。
- ・ キュウリでは激しい風雨に遭遇した場合、降雨後速やかに傷果・傷葉の除去のあと斑点細菌病などの予防を行う（カスミンボルドーなど）。

葉菜類

- ・ 激しい風雨に遭遇した場合、天候回復後速やかに泥汚れの洗浄を兼ね軟腐病の予防を行う（銅水和剤など）。

3. 花きの事後対策

- ・ 排水路の整備、通路末端の溝切りなどの排水対策を行い、根傷みや病害発生を抑える。通過後に水が溜まる場合は速やかに排水する。
- ・ 露地花きでは、倒伏防止のためフラワーネットや支柱の点検・補強を行う。
- ・ 激しい風雨に遭遇した場合は、折れた茎葉の除去や適切な薬剤散布等により病害の発生抑制に努める。
- ・ 露地花きでは、倒伏したものはできるだけ早く引き起こし、フラワーネット等のゆるみを直して茎の曲がり防止する。
- ・ 天候が回復した後、被覆資材、支柱、防虫ネット等の栽培施設や資材の点検及び修復を行う。特にキク等の栽培に係る電照・補光関連施設（電球、タイマー等）については、速やかに作動状況の点検を行ってください。

4. 果樹の事後対策

- ・ 圃場内の水が滞留しないよう、排水対策をおこなう
- ・ 激しい風雨に遭遇した場合は、病害防除を徹底する（とくに、カキ炭疽病発生園では必ず薬剤防除を行う）。
- ・ 激しい風雨後は山林が荒れることにより、カメムシ類の果樹園への飛来の恐れがあるので、園地の観察をこまめに行い、カメムシ類が確認された場合はただちに薬剤防除を行う。

5. 茶の事後対策

- ・ 圃場内の水が滞留しないよう排水対策を行う。
- ・ 激しい風雨により、葉ずれや葉傷みが生じた場合は、殺菌剤を散布し、病害の発生を防止する。
- ・ 幼木園等において、風雨により幹が回された、また倒伏した木は、早めに引き起こしをおこない、土寄せ・押圧・敷き草等により根や地際部を保護する。
- ・ 天候が回復した後、防霜ファン、棚施設や製茶工場等の施設、茶園の排水溝や法面等を点検し、修復を図る。